

切っ子



学校目標 「自ら気づき 考え 実行する」子どもの育成

文責 菊池 典男

◇ 青少年意見発表大会がありました！！素晴らしい発表でした！

11月9日（土）に各学校の代表者16名が集い、唐津市意見発表大会が開催されました。本校からも、6年生の前田祐宏さんが出場しました。祐宏さんに感心させられたのは、地球規模の課題とされる「子どもの貧困」を取り上げたことと、聴衆を意識した堂々とした発表ぶりです。以下に、発表内容を紹介します。

「盗まれた未来」

6年 前田 祐宏

ぼくは、時々、「学校に行きたくないな、家にいたいな」と思う時があります。でも、学校に行けることは、とっても幸せなんだと気づかされることがありました。

家族でテレビを見ていた時に、貧しさのために、路上で勉強する子どもの映像が流れていました。(中略)

以前から、学校に行けない子どもがいることは知っていましたが、学校に行かせてもらうことが大変な子どもたちはかわいそうだということに改めて感じました。

そこで、貧困に苦しんでいる子どもたちについて調べてみました。

世界では、約196の国と地域がありますが、(中略)小学校に通えていない子どもたちが6,100万人もいます。さらに、弟や妹の世話をしたり家計を助けるために労働を強いられたりしている子どもが、1億5,100万人もいます。勉強したくてもできない、学校に行きたくてもいけない子どもがたくさんいるのです。

もし、子どもが学校に行けないとどうなるのでしょうか。まず、字を読んだり書いたり、計算したりすることができません。そのために、公務員や会社員のように収入が安定した仕事に就くことができず、貧しい生活から抜け出せなくなってしまう。

調べているときに、心に残った言葉があります。それは、「未来を盗む」という言葉です。子どもに教育を受けさせない、受けさせることができないという状況は、子どもの明るい未来を盗んでいるという意味です。

世界中の子どもたちが学校に行けるようにするためには、どうしたらいいのでしょうか。

日本では、開発途上国に住んでいる人たちのために、教育の施設や仕組みを整えたり、指導者の育成や教科書の作成をしたりするなど、たくさんの協力をしています。また、先生が足りない国では、ボランティアの方々が授業をしている学校がたくさんあります。

ぼくは、開発国の国が協力し合って、学校に行けない子どもを一人でも多く、学校へ行けるようにしていかなければならないと思います。

ぼくも、少しでも多くの子どもたちの未来が盗まれないように、学校みんなにこのことを伝えて、募金を呼びかけたいと思います。小さな力ですが、そんな小さな力がつながっていけばいいなと思います。

自分自身も学校で勉強できることに感謝して、しっかり勉強して、自分自身の未来も世界中の子どもたちの未来も輝かせることができるように努力していきたいです。



◆ 鳴戸部屋の力士とふれあいました！！

11月7日(木)に川添政徳さんのお世話で、鳴戸部屋の欧翔山さんと向田さんが切木小学校にきてくれました。子どもたちは初めて見る力士の大きさに驚いていましたが、慣れてくると「どのくらいご飯を食べるのですか」や「給料はいくらぐらいもらっているのですか」などの質問をしたり、当たり稽古をつけてもらったりと、貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。



◆ 町内清掃活動にたくさん子どもたちが参加してくれました！！

11月9日(土)に唐津市ボランティア連絡協議会主催の町内清掃が行われました。早朝にもかかわらず、小学生29名、中学生4名、教職員8名、保護者4名、地域の方2名の47名の参加がありました。中学生をリーダーに、八折栄方面、仁田野尾方面、中浦方面に分かれて、道端に落ちているペットボトルや空き缶、紙屑などを楽しく拾いながら、清掃活動を行いました。

数日後、1年生の坂本真斗さんが登校してくるときに道端に落ちていたゴミを拾ってきてくれました。そのことを、集団下校のときに、「真斗さんのように、自分からゴミ拾いをできる人が増えていけば、自分自身も周りの人・地域の人にも気持ちよく生活できますね」といった内容の話をしました。それから、登校の際に道端に落ちている空き缶や空き瓶、ビニル袋などのゴミを拾ってきてくれる子どもが増えてきました。学校目標の「自ら気づき 考え 実行する」子どもに育っているのが嬉しいですね。



◆ すばらしい切っ子発表会でした！！

先週の金曜日、11月22日に切っ子発表会がありました。あいにく私は出張と重なってしまっていて見ることができなかったのですが、どの先生からも、子どもたちがとてもがんばっていたと聞きました。職員を代表して、教頭先生の感想を紹介させていただきます。

私にとっては初めてのことで、当日をととても楽しみにしていました。

どの学年も今まで学んできたことを生かした見ごたえのある発表でした。

想像以上にすばらしい発表でとても感動しました。

大きな声で堂々とステージに立つ子ども。

感情を込めて、役になりきってせりふを言う子ども。

学級で日ごろから協力し合っていることが分かる内容。

「誰もがみんな仲間」というテーマをもった内容。

そして、どの子どももきらきらとしたとてもよい表情でやりとげていました。

このような機会があることで子どもたちは目標をもち、それに向かって頑張ります。そして、地域や保護者の皆様に拍手をもらうことで自信となり、子どもたちの大きな成長につながると思います。保護者の皆様、地域の方々に感謝しております。

